

AWAMIST 施工説明書

999166(0)

品番
仕様

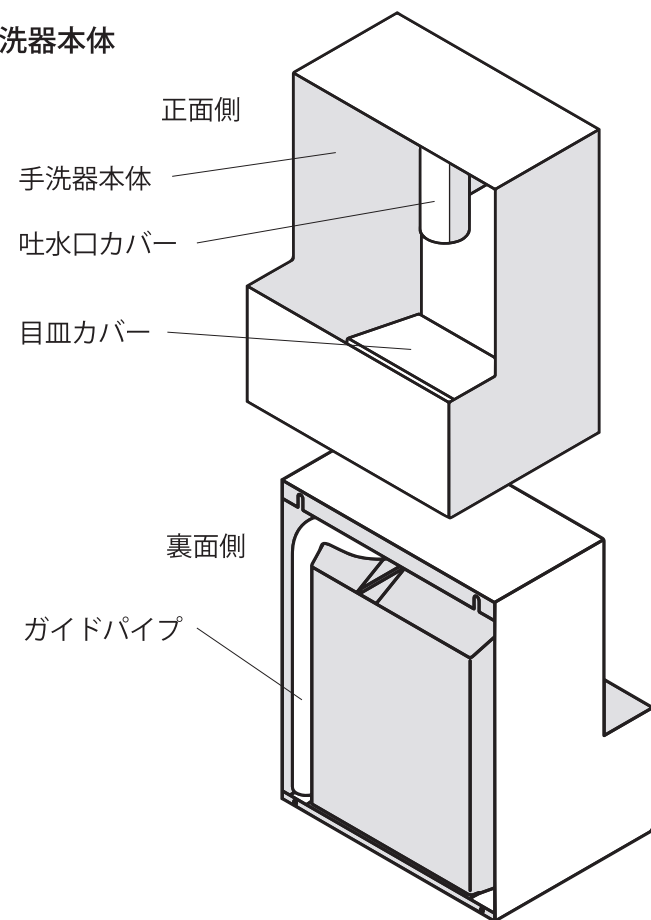
AW001S-BL	- インクブラック・ストレート止水栓・Sトラップ・ボックス有り仕様
AW001S-WH	- コットンホワイト・ストレート止水栓・Sトラップ・ボックス有り仕様
AW001P-BL	- インクブラック・アングル止水栓・Pトラップ・ボックス有り仕様
AW001P-WH	- コットンホワイト・アングル止水栓・Pトラップ・ボックス有り仕様
AW002S-BL	- インクブラック・ストレート止水栓・Sトラップ・ボックス無し仕様
AW002S-WH	- コットンホワイト・ストレート止水栓・Sトラップ・ボックス無し仕様
AW002P-BL	- インクブラック・アングル止水栓・Pトラップ・ボックス無し仕様
AW002P-WH	- コットンホワイト・アングル止水栓・Pトラップ・ボックス無し仕様

施工前にこの施工説明書及び同梱の説明書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書及び同梱の取扱説明書・安全上のご注意を施工完了後にお客様にお渡しください。
この施工説明書はA 3両面印刷 3枚の構成となっています。

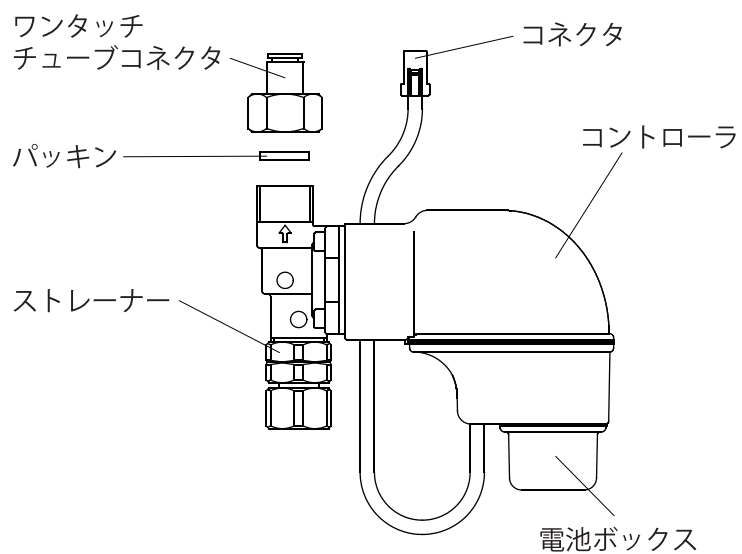
1 各部名称

① 共通部品（全仕様共通）

手洗器本体

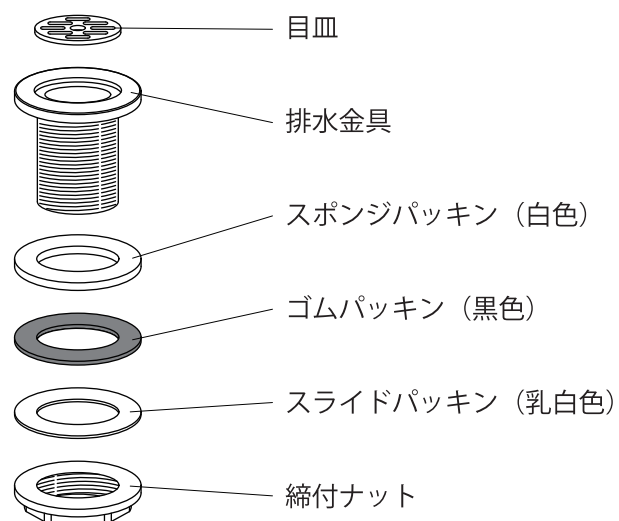


自動水栓ユニット



排水金具

※排水金具は排水トラップに同梱されています。

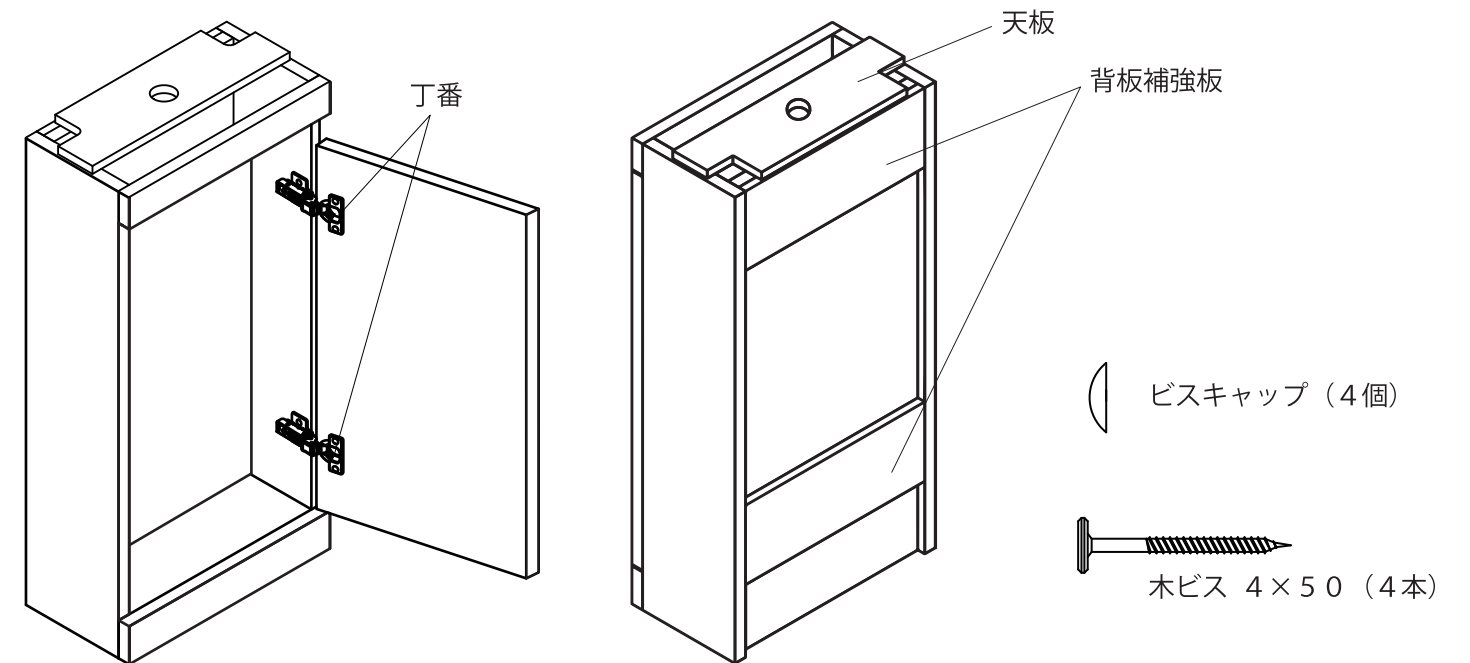


六角フランジ
タッピンビス (2本)

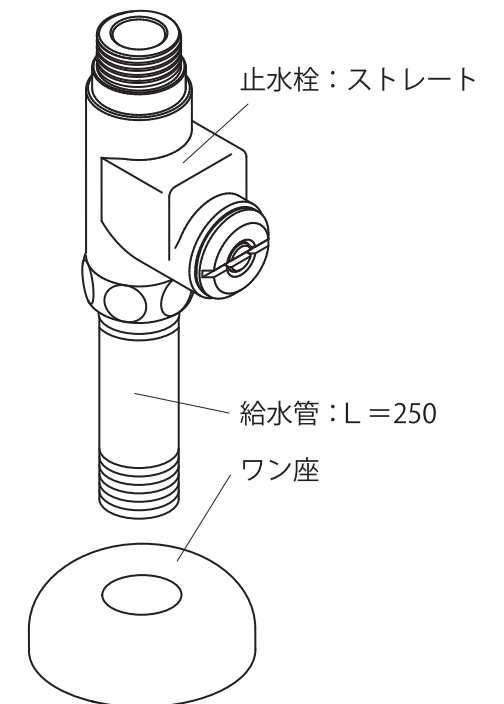
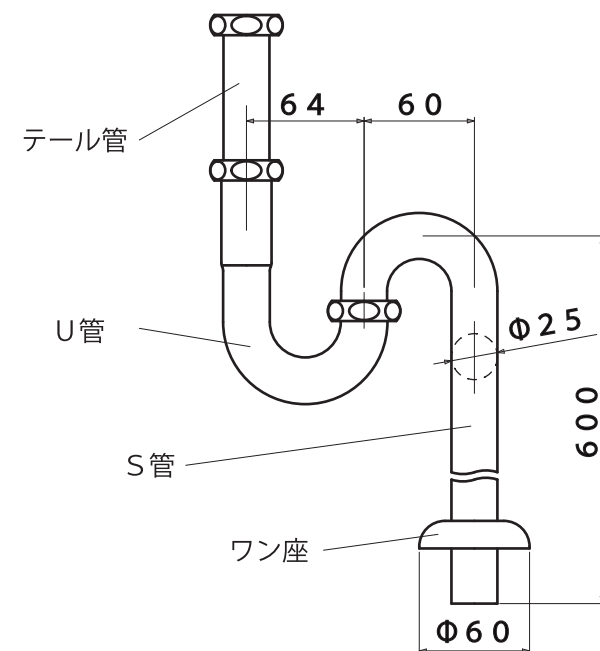
皿ビス 4.5×30 (2本)
(ボックス無しタイプ用)

定流量アダプター

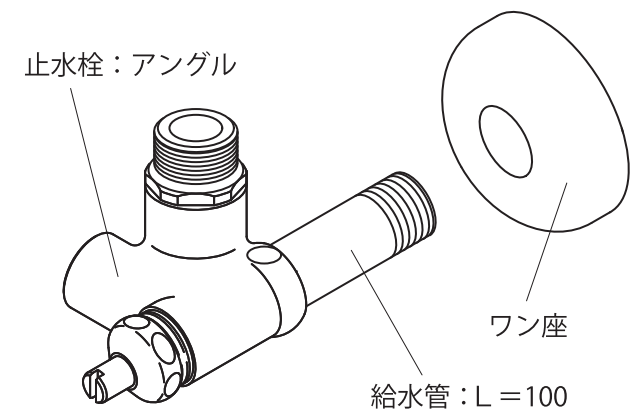
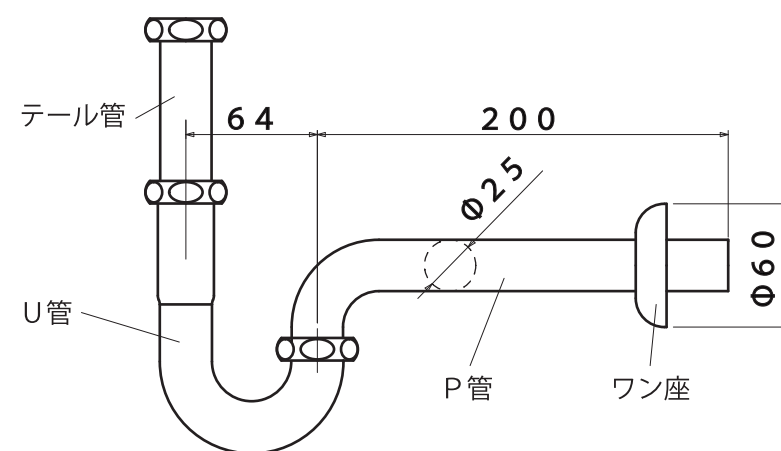
② ボックス有り仕様 (AW001S、AW001P シリーズ)



③ Sトラップ仕様 (AW001S、AW002S シリーズ)



④ Pトラップ仕様 (AW001P、AW002P シリーズ)



2 取付け前の確認

《取付け前のご注意》

- 商品の品質確保の為、作業は必ず2人以上で行ってください。
- 商品の搬入経路を確保してください。運搬は手運びにて行ってください。
- 商品を開梱して、外観に損傷がないことを確認してください。
※取付け後の損傷は保証対象外となります。
- ビス取付位置にあらかじめ補強板を取付けてください。ビス取付位置については「3 ビス取付位置・穴加工寸法」をご参照ください。
- 石膏ボードのみでの固定は絶対にしないでください。
- 引渡し完了まで、梱包の段ボールや緩衝材等で商品を養生してください。
※養生テープは商品に直接貼らないでください。

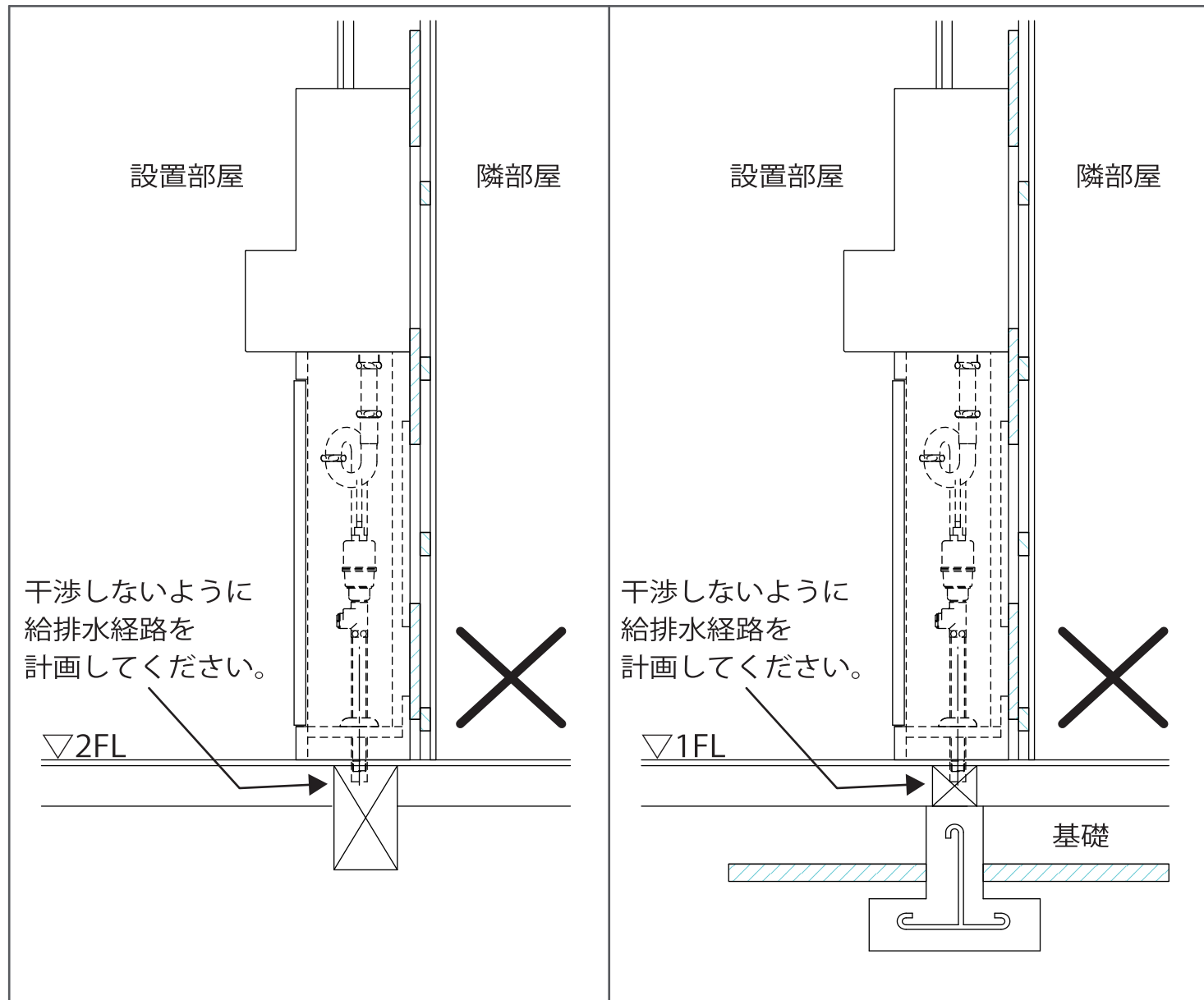
《取付け前の確認》

取付け場所が図面どおりか、以下の項目を確認してください。

- 取付け場所の間口寸法・床の水平・壁の垂直・コーナー部の直角度水平・垂直・角度などの精度
※精度が出ていないと仕上げが悪くなり、使用時の安全性にも影響します。
- 窓枠や建具の位置および寸法
- 取付け用補強板の位置および寸法
- 必要な給水管・排水管の位置および接続方法

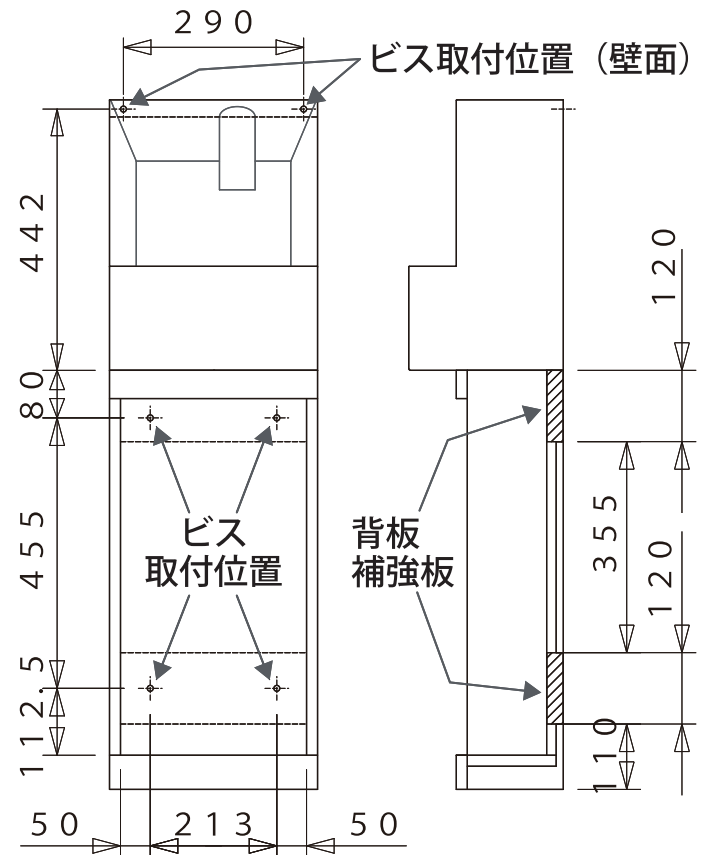
《室内給排水のご注意》

- 商品を通り芯等に位置する外壁・間仕切り壁等付近に取付ける場合は、取付け位置によって建築構造材（基礎・間仕切基礎・土台・根太・床梁等）と干渉する場合があります為、干渉しないよう給排水経路を計画してください。
- 給排水経路を確保し、スムーズに設置できるよう設計してください。



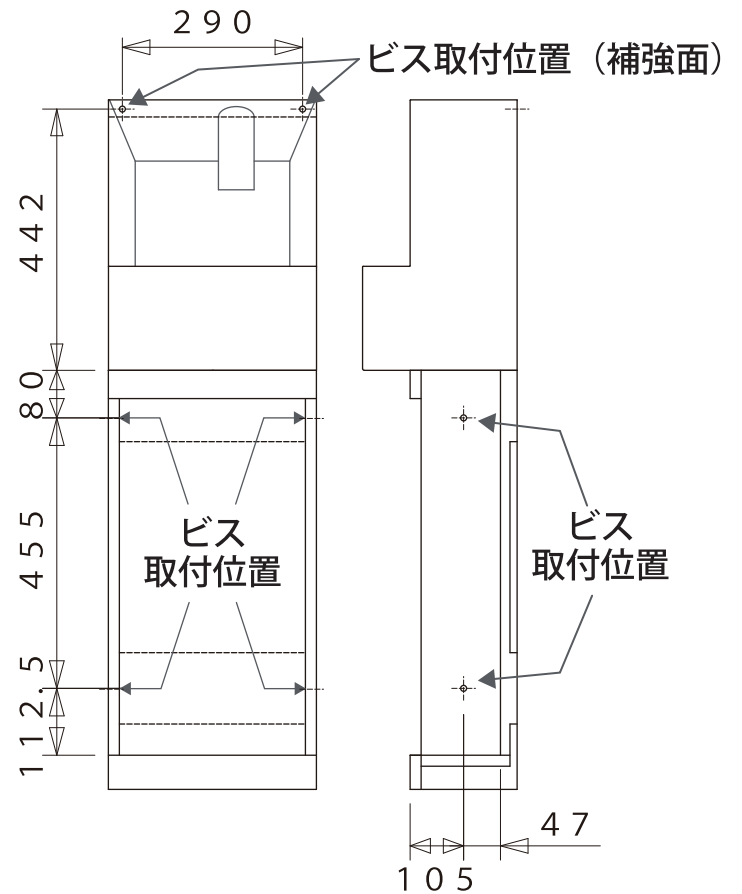
3 ビス取付位置・穴加工寸法

壁付仕様の推奨ビス取付位置



- 手洗器本体のビス取付位置は変えないでください。
- ボックスは、ハッチング部の背板補強板がある範囲にビス止めします。推奨ビス穴位置は図面のとおりですが、この範囲内であれば状況によってビスを打つ位置を調整することができます。

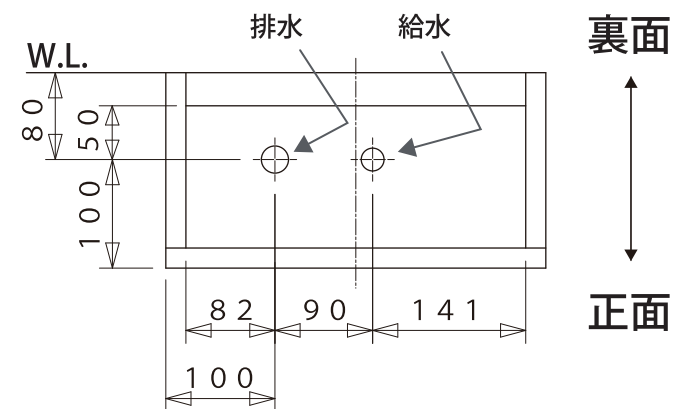
埋込仕様の推奨ビス取付位置



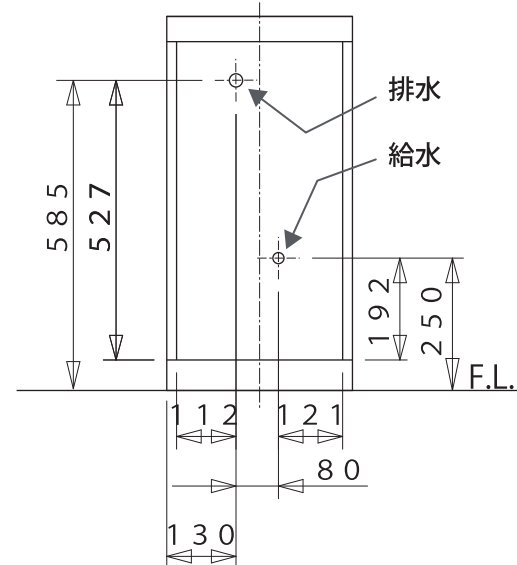
- 手洗器本体のビス取付位置は変えないでください。
- ボックスは、側面の板にビスを打ち込み、取付けた縦胴縁に固定します。壁面の適切な位置に補強がある場合は、壁付仕様のよう固定することもできます。

給排水穴加工の推奨位置

Sトラップ (AW001S シリーズ)



Pトラップ (AW001P シリーズ)



4 取付け手順（手洗器本体・ボックス）

壁付仕様の場合（AW001S、AW001P シリーズ）

①取付け場所の確認

取付け場所を確認し、壁面に補強が施してあるか確認してください。
壁に巾木が取付けられている場合は、ボックスの横幅に合わせて巾木をカットしてください。または、ボックスと巾木が接する部分を加工することができる為、ボックスをノコギリ等で加工してください。（※1）

②給排水用の穴加工（底板・背板）

ストラップ仕様の場合はボックスの底板に、Pトラップ仕様の場合はボックスの背板に、必要に応じた配管の取出し穴を開けてください。
※穴位置は「**③** ビス取付位置・穴加工寸法」をご参照ください。

③ボックスの仮置き

取付け場所にボックスを仮置きしてください。この時、ボックスが壁に密着していることと、床に対して垂直に仮置きできていることを確認してください。

④手洗器本体取付用のビス取付け

同梱の「AWAMIST手洗器 取付用型紙」を使用し、ビス（六角フランジタッピンビス）を壁面の2か所に取付けます。
※この時、ビス頭と取付ける壁面の隙間が2mm程度になるように取付けてください。

⑤手洗器本体の取付け

手洗器本体裏側のU字の切欠き部を取付けたビスと壁面の隙間に差し込みます。（※2）
※差し込み時、壁面を傷つけないようにあらかじめ養生をしてください。
※ビスと壁面の隙間にU字の切欠き部がしっかり入っていないと、手洗器本体とボックスがぴたり合わず浮いてしまう為、U字の切欠き部がビスと壁面の隙間にしっかりはまっていることを確認してください。

⑥ボックスの固定

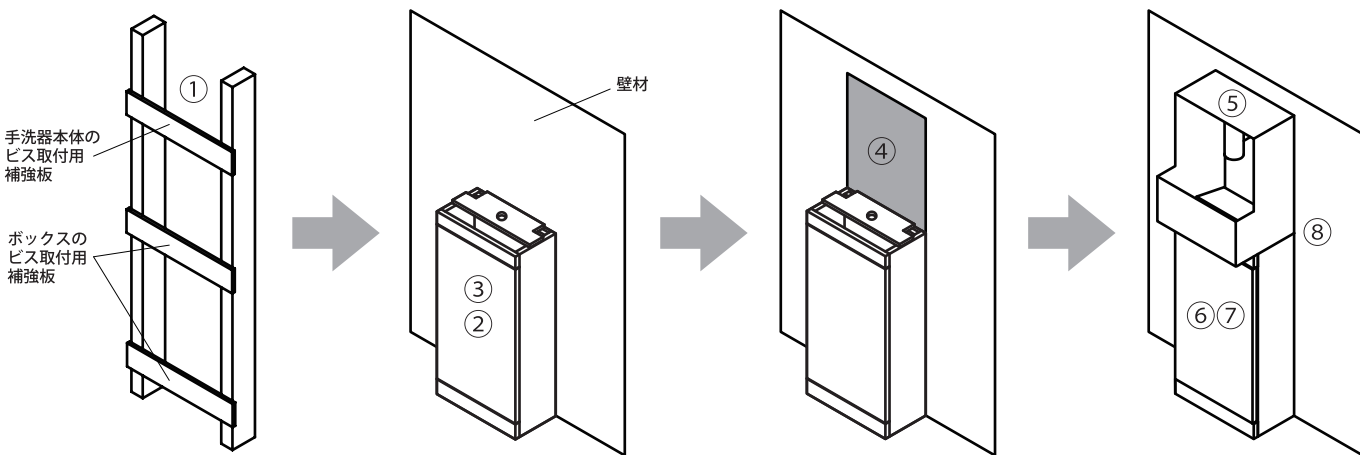
手洗器の側面とボックスの側面が同一平面上に揃っていることを確認し、ボックスをビス（木ビス 4×50）4本で固定してください。
その後、ビスの頭にビスキャップをはめてください。
※ビス取付位置は「**③** ビス取付位置・穴加工寸法」をご参照ください。

⑦排水金具の取付け（「**⑨** 取付け手順（排水金具）」をご参照ください。）

手洗器本体底面の穴とボックス天板の穴に排水金具を通して締め付け、手洗器本体とボックスを固定します。

⑧傾いていないか・ガタツキやズレがないか・手洗器本体、ボックスと壁との間に隙間がないか・手洗器本体が浮いていないか・緩みがないか等を確認

⑨給排水の接続（自動水栓ユニットの取付けについては、「**⑧** 取付け手順（水栓部品）」をご参照ください。）

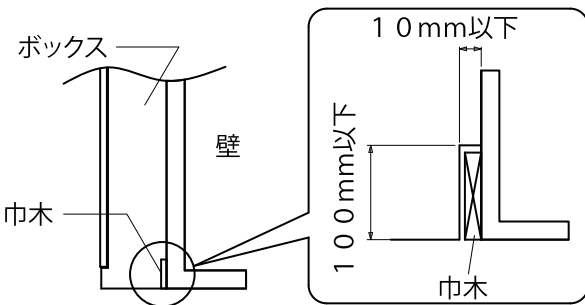


※必要に応じて、施工後にコーキング処理を行うことをおすすめします。
※手洗器本体・ボックスの固定は、付属のビスを使い、下地用の横胴縁・補強板に固定してください。
石膏ボードのみでの固定は絶対にしないでください。
※自立設置は手洗器本体及びボックスの転倒事故等につながりますので絶対にしないでください。

※ビス固定位置にあらかじめ補強板（板厚：12mm以上）を取付けてください。ビス固定位置については「**③** ビス取付位置・穴加工寸法」をご参照ください。
※石膏ボードのみでの固定は絶対にしないでください。

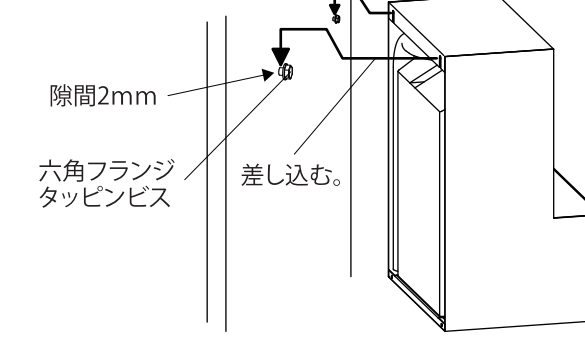
※1

巾木用カット可能寸法



※2

手洗器本体の取付け



5 取付け手順（手洗器本体・ボックス）

埋込仕様の場合（AW001S シリーズ）

①下地用の胴縁・補強板の取付け

手洗器本体の横幅（350mm）に合わせ、下地用の縦胴縁（板厚：33mm以上）を取付けてください。その後、手洗器本体のビス止め位置に補強板（板厚：24mm以上）を取付けてください。合わせて、ボックスの位置出し用の補強板も取付けてください。

②給排水用の穴加工（底板）

ボックスの底板に、必要に応じた配管の取出し穴を開けてください。 ※穴位置は「**③** ビス取付位置・穴加工寸法」をご参照ください。

③ボックスの仮置き

取付けた下地用の縦胴縁の間にボックスを仮置きしてください。この時、ボックスが位置出し用の補強板に密着していることと、床に対して垂直に仮置きできていることを確認してください。

④手洗器本体取付用のビス取付け

同梱の「AWAMIST手洗器 取付用型紙」を使用し、ビス（六角フランジタッピンビス）を補強板の2か所に取付けます。
※この時、ビス頭と取付ける補強板の隙間が2mm程度になるように取付けてください。
※この時、隣の部屋の壁にビスが貫通しないよう注意してください。

⑤手洗器本体の取付け

手洗器本体裏側のU字の切欠き部を取付けたビスと補強板の隙間に差し込みます。（※3）
※差し込み時、壁面を傷つけないようにあらかじめ養生をしてください。
※ビスと補強板の隙間にU字の切欠き部がしっかり入っていないと、手洗器本体とボックスがぴたり合わず浮いてしまう為、U字の切欠き部がビスと補強板の隙間にしっかりはまっていることを確認してください。

⑥ボックスの固定

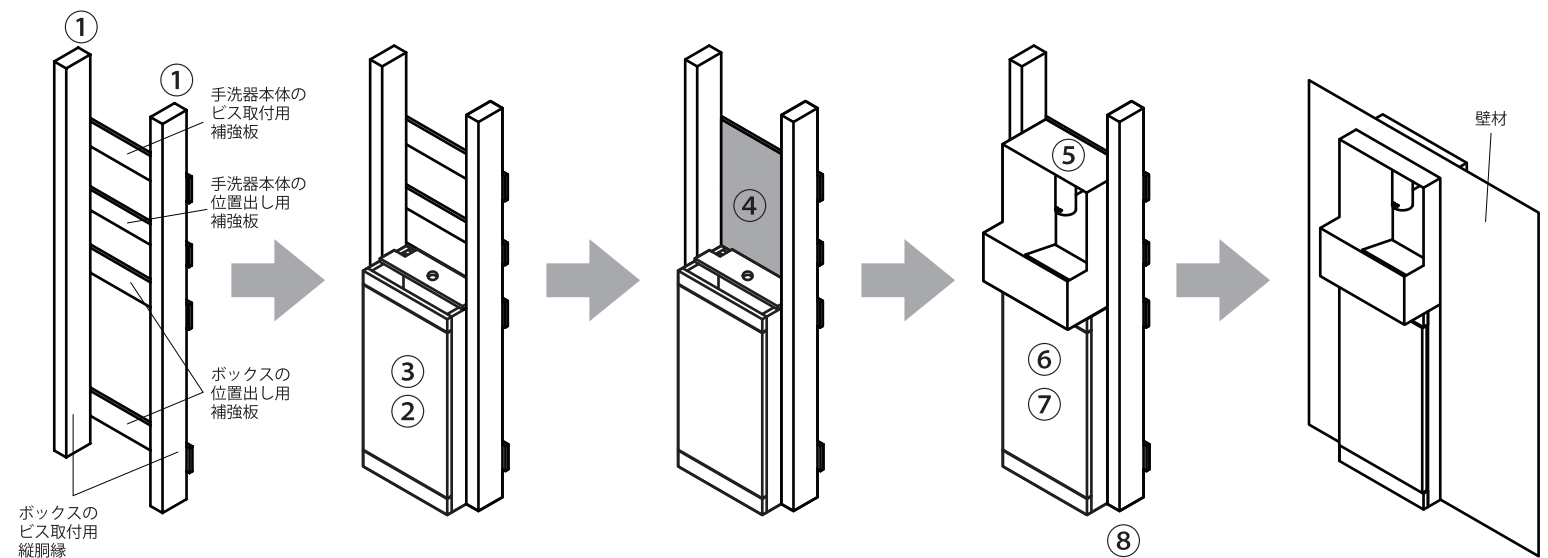
手洗器の側面とボックスの側面が同一平面上に揃っていることを確認し、ボックスをビス（木ビス 4×50）4本で固定してください。その後、ビスの頭にビスキャップをはめてください。
※ビス取付位置は「**③** ビス取付位置・穴加工寸法」をご参照ください。

⑦排水金具の取付け（「**⑨** 取付け手順（排水金具）」をご参照ください。）

手洗器本体底面の穴とボックス天板の穴に排水金具を通して締め付け、手洗器本体とボックスを固定します。

⑧傾いていないか・ガタツキやズレがないか・手洗器本体、ボックスと壁との間に隙間がないか・手洗器本体が浮いていないか・緩みがないか等を確認

⑨給排水の接続（自動水栓ユニットの取付けについては、「**⑧** 取付け手順（水栓部品）」をご参照ください。）



※施工後にコーキング処理を行うことをおすすめします。
※手洗器本体・ボックスの固定は、付属のビスを使い、下地用の縦胴縁・横胴縁・補強板に固定してください。
石膏ボードのみでの固定は絶対にしないでください。
※自立設置は手洗器本体及びボックスの転倒事故等につながりますので絶対にしないでください。

6 取付け手順（手洗器本体）

壁付仕様の場合（AW002S、AW002P シリーズ）

※ボックス無しタイプの品番（AW002シリーズ）は埋込仕様に対応しておりません。

①取付け場所の確認

取付け場所を確認し、壁面に補強が施してあるか確認してください。

②手洗器本体取付用のビス取付け

同梱の「AWAMIST手洗器 取付用型紙」を使用し、ビス（六角フランジタッピンビス）を壁面の2か所に取付けます。

※この時、ビス頭と取付ける壁面の隙間が2mm程度になるように取付けてください。

③手洗器本体の取付け

手洗器本体裏側のU字の切欠き部を取付けたビスと壁面の隙間に差し込みます。（※4）

その後、手洗器本体をビス（皿ビス 4.5×30）で固定します。（※5）

※差し込み時、壁面を傷つけないようにあらかじめ養生をしてください。

※ビスと壁面の隙間にU字の切欠き部がしっかり入っていないと、手洗器本体の落下・ズレ等の原因になる場合がありますので、U字の切欠き部がビスと壁面の隙間にしっかりはまっていることを確認してください。

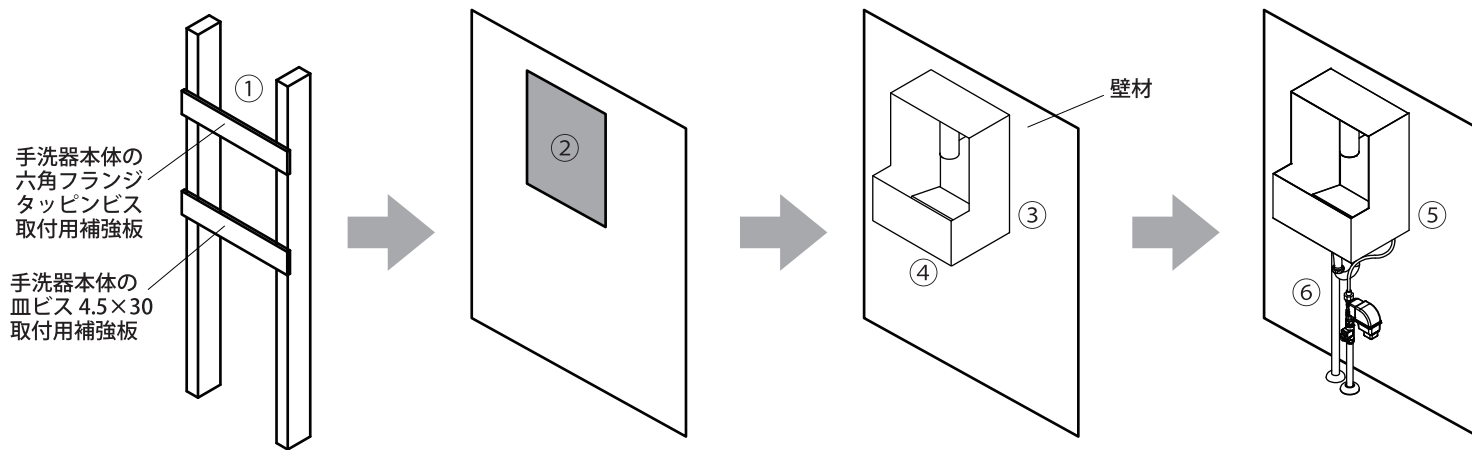
④排水金具の取付け

「9取付け手順（排水金具）」の方法で排水金具を取付けます。

⑤傾いていないか・ガタツキやズレがないか・手洗器本体、壁との間に隙間がないか・手洗器本体が浮いていないか・緩みがないか等を確認

⑥給排水の接続

自動水栓ユニットの取付けについては、「8取付け手順（水栓部品）」をご参照ください。

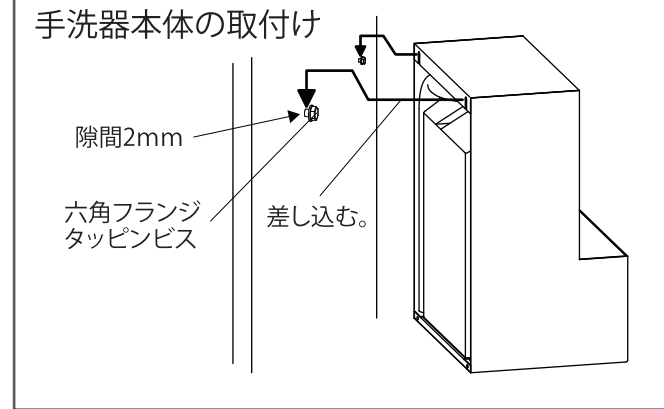


※必要に応じて、施工後にコーキング処理を行うことをおすすめします。

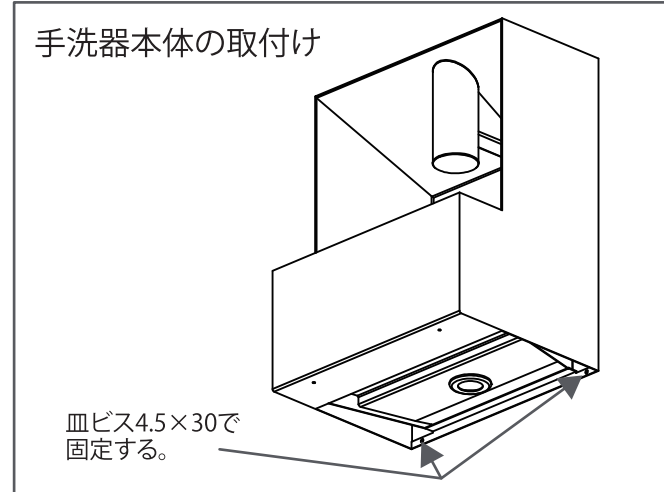
※手洗器本体の固定は、付属のビスを使い、下地用の横胴縁・補強板に固定してください。
石膏ボードのみでの固定は絶対にしないでください。

※ビス固定位置にあらかじめ補強板（板厚：12mm以上）を取付けてください。ビス固定位置については「3 ビス取付位置・穴加工寸法」をご参照ください。
※石膏ボードのみでの固定は絶対にしないでください。

※4



※5



7 取付け手順（手洗器本体）

カウンターの上に取付けする場合（AW002S、AW002P シリーズ）

①固定方法・取付け場所の確認

カウンターの上に取付けする場合は、壁付仕様のように付属のビスを使用して手洗器本体を固定するか、手洗器本体のカウンター・壁に接する部分をコーキング処理して固定してください。固定がないと手洗器本体のズレの原因になる場合があります。

取付け場所を確認し、手洗器本体・給排水の取付けに問題が無いかを確認してください。付属のビスを使用して本体を固定する場合は、壁面に補強が施してあるかを確認してください。

②手洗器本体取付用のビス取付け（付属のビスで固定する場合）

同梱の「AWAMIST手洗器 取付用型紙」を使用し、ビス（六角フランジタッピンビス）を壁面の2か所に取付けます。

※この時、ビス頭と取付ける壁面の隙間が2mm程度になるように取付けてください。

※給排水接続用の穴との位置関係を確認して取付けてください。

③手洗器本体の取付け（付属のビスで固定する場合）

手洗器本体裏側のU字の切欠き部を取付けたビスと壁面の隙間に差し込みます。（※6）

※差し込み時、壁面を傷つけないようにあらかじめ養生をしてください。

※ビスと壁面の隙間にU字の切欠き部がしっかり入っていないと、手洗器本体とカウンターがぴったり合わず浮いてしまう為、U字の切欠き部がビスと壁面の隙間にしっかりはまっていることを確認してください。

※7

④排水金具・器固定金具の取付け

「9取付け手順（排水金具）」の方法で排水金具を取付けます。その後、別売の「器固定金具」を排水金具に接続して締め付けます。（※7）

⑤傾いていないか・ガタツキやズレがないか・手洗器本体、壁との間に隙間がないか・手洗器本体が浮いていないか等を確認

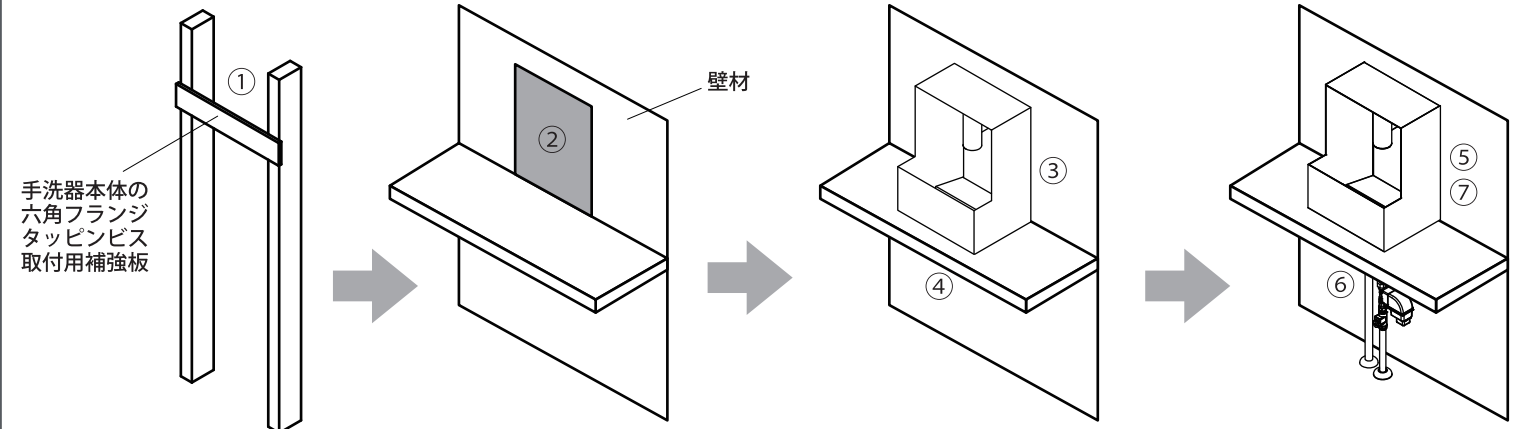
⑥給排水の接続

自動水栓ユニットの取付けについては、「8取付け手順（水栓部品）」をご参照ください。

⑦コーキング処理で手洗器本体を固定

手洗器本体をビスで固定していない場合は、手洗器本体のカウンター・壁に接している部分をコーキング処理して本体を固定してください。

ビスで固定する場合でもコーキング処理をすることで強度・防水性能が上がる為、おすすめです。

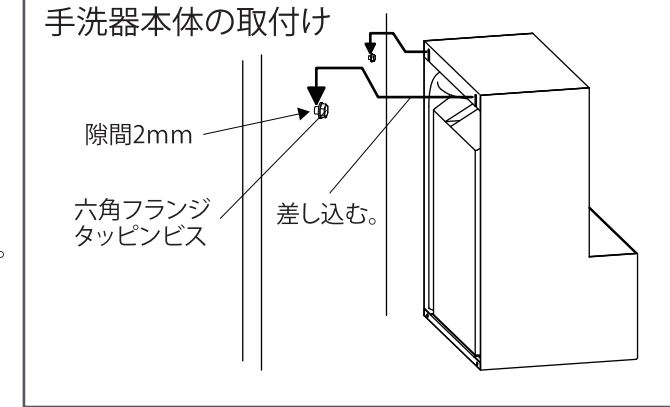


※手洗器本体をビスで固定する場合は、必要に応じて、施工後にコーキング処理を行うことをおすすめします。

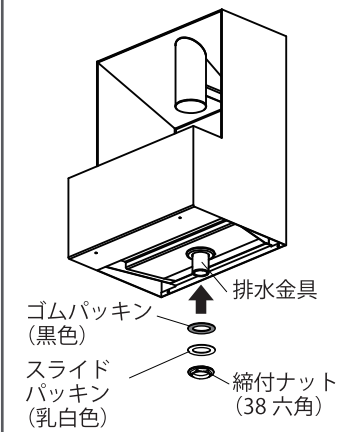
※手洗器本体をビスで固定する場合は、付属のビスを使い、下地用の横胴縁・補強板に固定してください。
石膏ボードのみでの固定は手洗器本体のズレの原因になる場合があります。

※手洗器本体をビスで固定する場合は、ビス固定位置にあらかじめ補強板（板厚：12mm以上）を取付けてください。ビス固定位置については「3 ビス取付位置・穴加工寸法」をご参照ください。
石膏ボードのみでの固定は手洗器本体のズレの原因になる場合があります。

※6

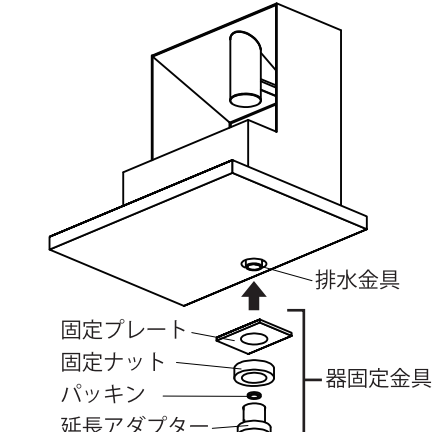


排水金具の取付け



「9取付け手順（排水金具）」の方法で、排水金具を取付けます。

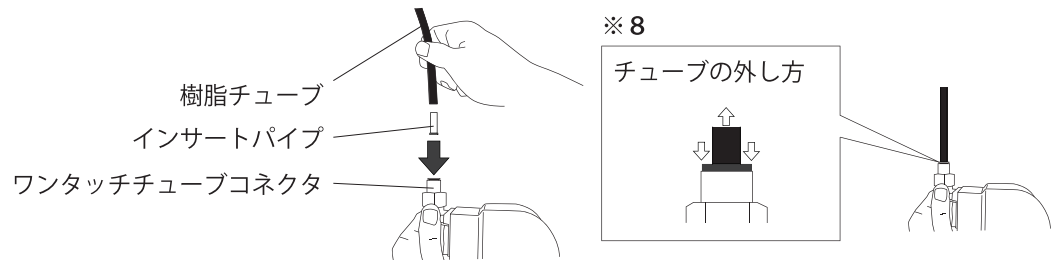
器固定金具の取付け



固定プレート・固定ナットを延長アダプターに通し、付属のパッキンを使って排水金具と延長アダプターを接続します。

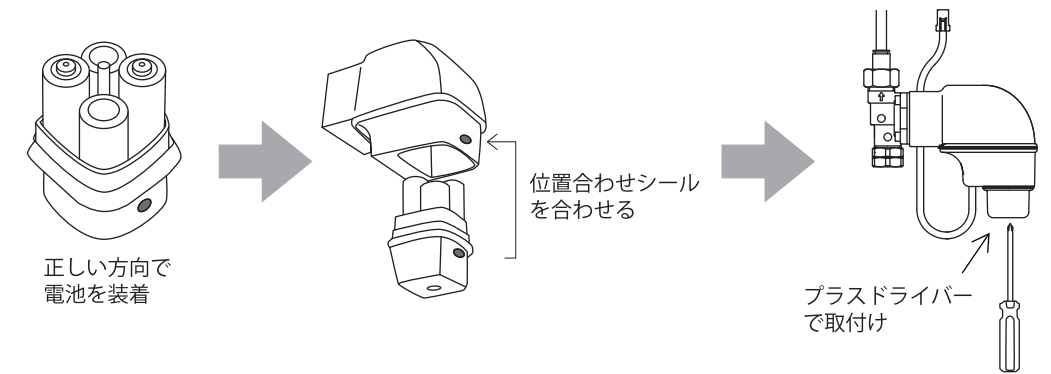
8 取り付け手順（水栓部品）

- ①止水栓の開閉を行い、配管内がきれいになっていることを確認してください。
出る水がキレイか、ごみ・砂・サビ等の異物がないか確認してください。
- ②パッキン（黒色）を使って、ワンタッチチューブコネクタをコントローラに接続します。
- ③ノンアスパッキン（茶色）を使って、定流量アダプターを止水栓に接続します。
- ④パッキン（黒色）を使って、コントローラを定流量アダプターに接続します。
- ⑤樹脂チューブの末端にインサートパイプを装着し、ワンタッチチューブコネクタに差し込みます。樹脂チューブが長い場合は、適切な長さで切断し調節してください。調節の為に取付けた樹脂チューブを取外す場合は、差し込み部（黒い部分）を押し付けながら樹脂チューブを引くと取外すことができます。（※8）

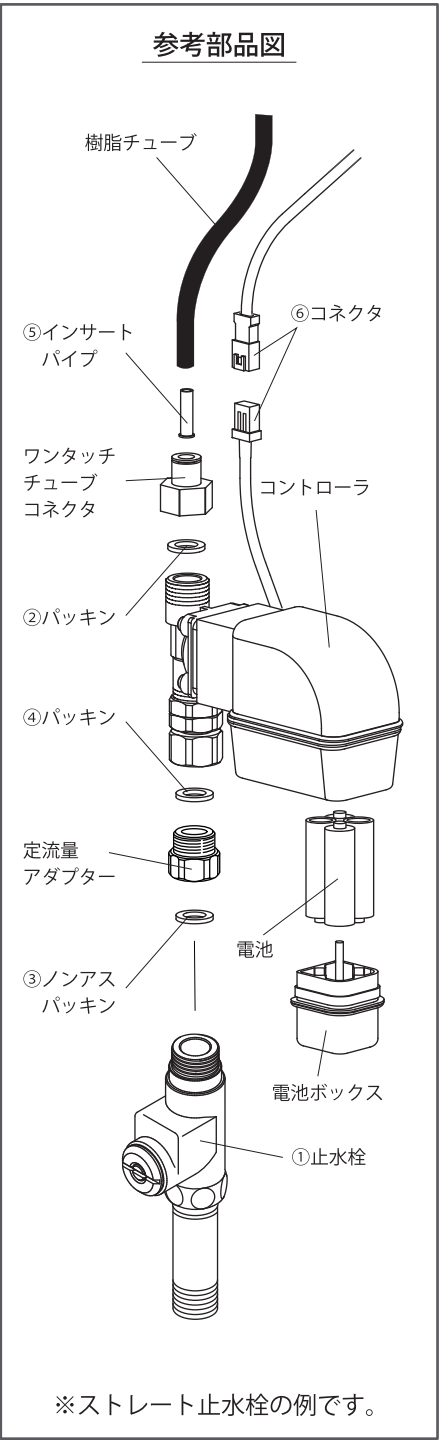


⑥コネクタを接続します。

- ⑦センサー部分（吐水口カバー）の下に不要なものが置かれていないことを確認し、付属の単3アルカリ乾電池4本を電池ボックスに正しい方向で装着し、位置合わせシールを合わせて、プラスドライバーで電池ボックスをコントローラに取付けてください。（取付後、センサーが自動で感度設定を行います。完了まで15秒ほどかかりますので、その間はセンサー部周辺に障害物や手を入れないでください。）



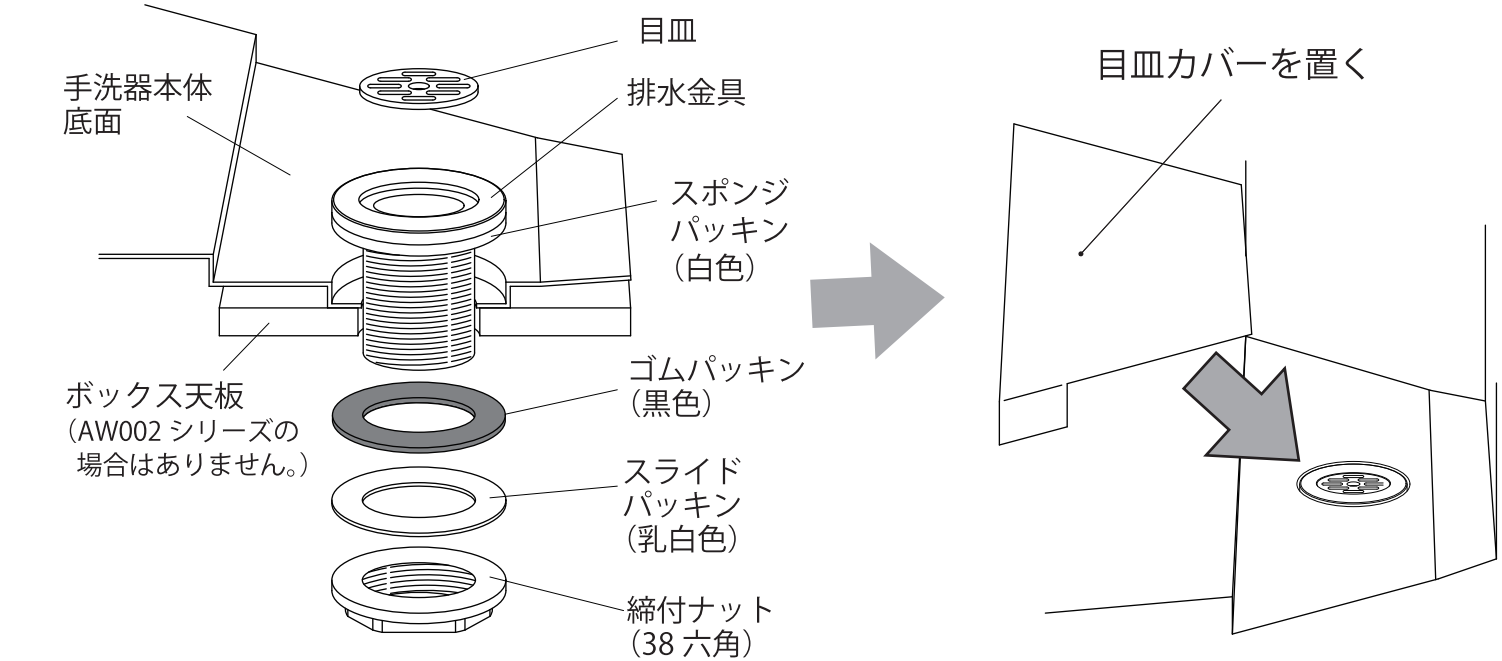
- ⑧通電・通水し、自動水栓ユニットの作動確認を行い水漏れがないか確認してください。確認後、濡れた部分を乾燥した柔らかい布等でふき取ってください。



9 取り付け手順（排水金具）

この手順に従って排水金具を取付けてください。

- ※パッキンの位置を間違えないよう注意して取付けてください。
※排水口にモノやゴミ等が落ちるとつまりの原因になりますので、必ず目皿を取付けてください。
※排水金具は、トラップに同梱されています。



※排水金具の取付後、排水金具を隠すように手洗器の中に目皿カバーを置いてください。

自動水栓ユニット製品仕様

電 源	DC 6 V (単3アルカリ乾電池4本)
電 池 寿 命	約10年 (1日100回 ※1)
接 続 ネジ 寸 法	G 1 / 2
耐 圧	1. 7 5 MPa 1 分間
使用圧力範囲	0. 1 5 ~ 0. 7 5 MPa
使用温度範囲	1 ~ 5 0 ℃以内
使用水温範囲	1 ~ 5 0 ℃以内
使 用 流 体	上水（氷結、ゴミ等の異物の混入がないこと）

- ※1：電池寿命は、パナソニック製エボルタ乾電池を使用し、温度環境を20℃として計算した場合の目安であり、ご使用環境等により変動することがあります。また、パナソニック製エボルタ乾電池以外のものをご使用の場合は、同環境で約5年となります。なお、交換する電池は必ず同一メーカーのもので新品4本をご使用ください。
- ※2：本製品は単3アルカリ乾電池専用です。

自動水栓ユニットについてのご注意

- ※本製品は上水でご使用ください。上水以外でご使用になったことによる故障や不具合は、保証対象外となります。
- ※新築・改築または既存の蛇口を取外して本製品を取付ける際は、必ず空流し配管内のゴミや砂等の異物を完全に洗い流してから取付けてください。
- ※本製品は寒冷地仕様ではありません。凍結のおそれがある場合は、水栓部品のまわりの温度が氷点下にならないようにしてください。
- ※自動水栓ユニットのコントローラおよび電池ボックス部分は必ず垂直に設置し、給水管には適切な固定を施してください。逆さまに設置したり、斜めに設置したりすると、故障・破損の原因となります。
- ※流量調節及びメンテナンス用に、コントローラの直前に必ず止水栓を設置してください。
- ※本製品は屋外や直射日光が当たる場所ではご使用になれません。
- ※精密機器につき、落下などで衝撃が加わらないよう、十分にご注意ください。
- ※電気製品ですのでコントローラ部に直接水をかけないでください。
- ※製品を分解・改造しないでください。発熱・漏電・火災の原因となります。
- ※浴室など湿気の多い場所でのご使用は、故障の原因となるので避けてください。

10 取付け後の確認

《取付け後の確認》

①傾いていないか・ガタツキやズレがないか・手洗器本体、ボックスと壁との間に隙間がないか・手洗器本体が浮いていないか・緩みがないか等を確認してください。

②水栓部品と排水器具が確実に取付けられ、各接続部から水漏れがないことを確認してください。

③通電・通水し、自動水栓ユニットの作動確認を行ってください。

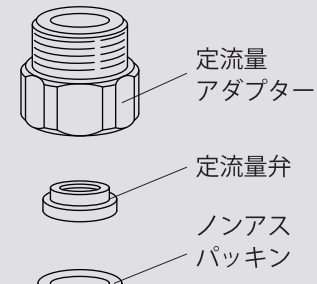
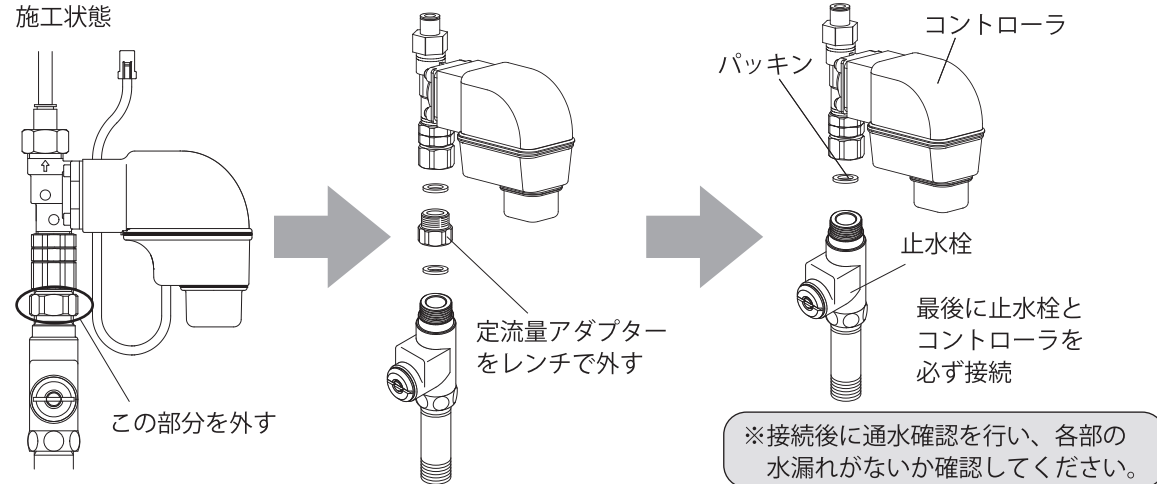
通水後、濡れた部分を乾燥した柔らかい布でふき取ってください。

※本商品は定流量弁（1L/min 仕様）が内蔵されております。圧力が低い地域に限り、手洗いに必要な流量が確保できない場合は、お施主様と相談したうえで、下記の手順に従って定流量弁を外してください。

※定流量弁を外して流量を多くした場合、手前にひどく水はねする場合があります。流量を十分調整したうえでご使用ください。

※取外しされる際は、必ず「止水栓の操作」と「内部の圧力を抜く操作」を行ってください。※取扱説明書「[4]ストレーナーのお手入れ」参照
※取外しされる際は、ボックス内に残った水がこぼれるおそれがある為、水受けバケツ等を用意してください。

施工状態



※取外した後は説明書等と一緒に保管してください。

④商品を清掃し、商品を養生してください。

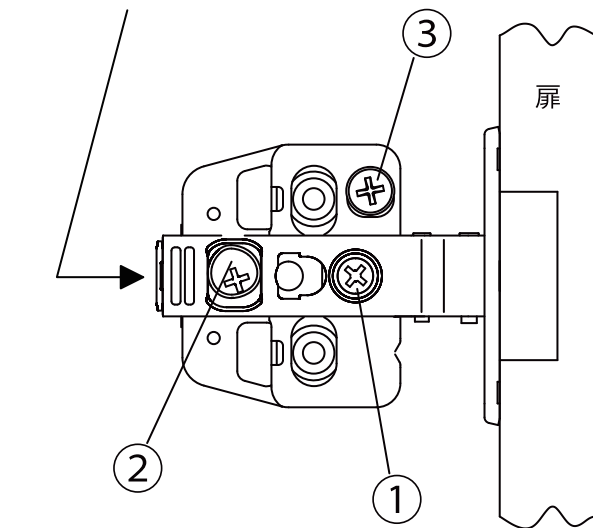
※養生前に工具やゴミ等が商品の上や商品の中に置いたままになっていないか必ず確認してください。

《丁番の調整》

ボックスは出荷時に丁番を最適位置に調整していますが、取付け後に微調整が必要な場合は、丁番のネジ①②③を回して調整してください。

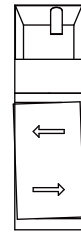
※①②③以外のネジは緩めないでください。

この部分のレバーには触らないでください。
扉が外れるおそれがあります。



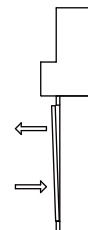
左右の調整（扉の目地を揃える）

①の調節ネジを回すと扉の左右を調整できます。



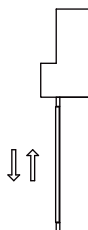
前後の調整（扉の前後の傾きを直す）

②の調節ネジを回すと、扉の前後を調整できます。



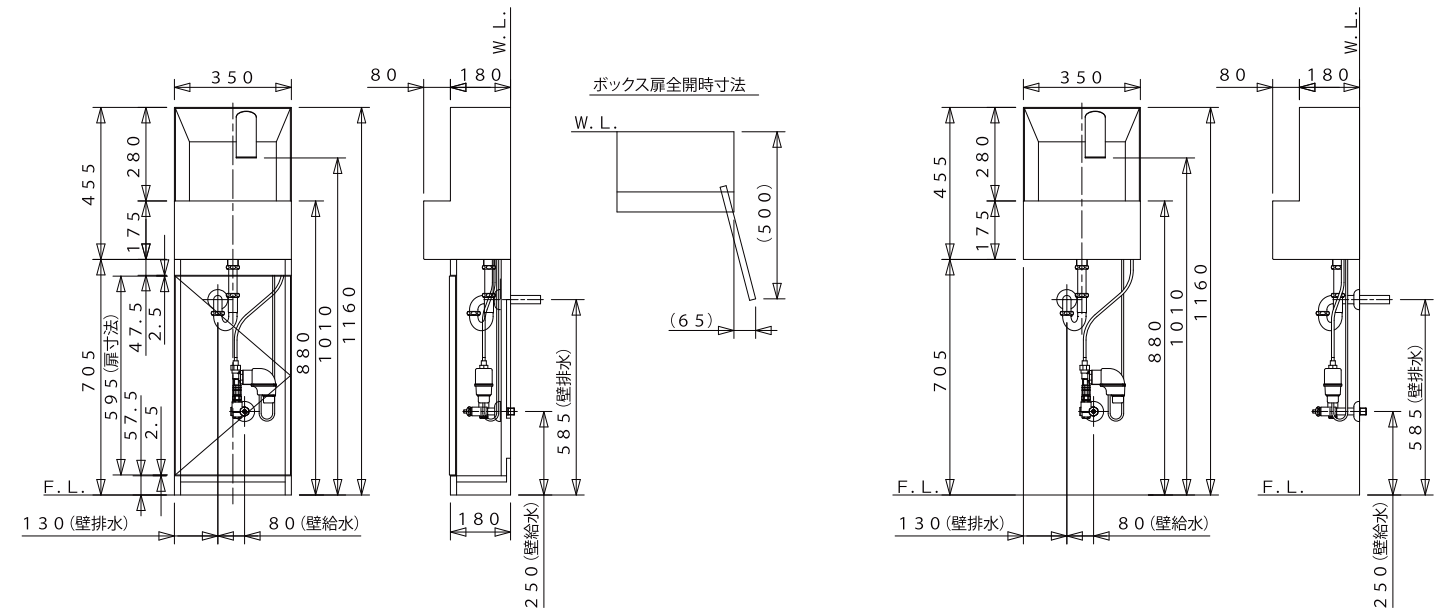
上下の調整（扉の上下の偏りを直す）

③の調節ネジを回すと扉の上下を調整できます。

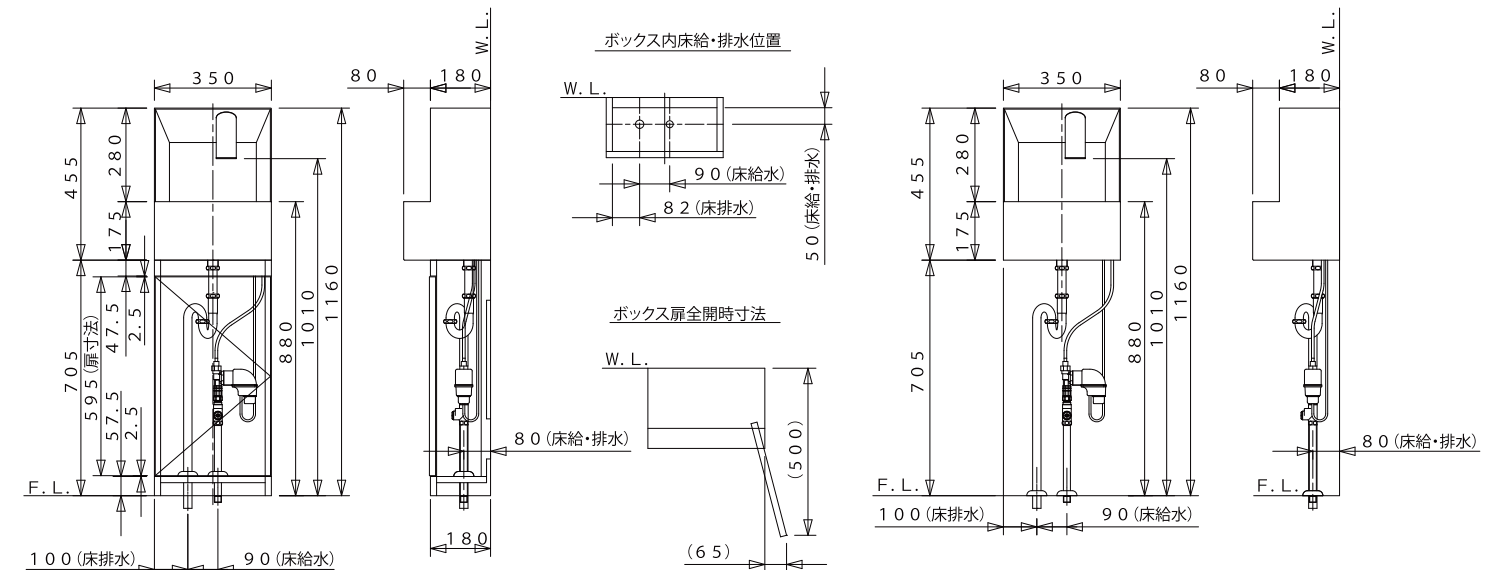


11 仕様図面

Pトラップ仕様



Sトラップ仕様



〒501-2257 岐阜県 山県市 富永 194 TEL：0581-52-2131 FAX：0581-52-2622

お電話でのお問い合わせ：平日 9時00分～17時20分

WEBサイトでのお問い合わせ：24時間受付

AWAMIST
WEBサイト

<https://www.mizutani-v.co.jp/awamist/>